



令和元年 7月 18日

独立行政法人国立科学博物館

科博NEWS展示

「1889年明治熊本地震－130年前に始まった 地震被害調査－」開催のお知らせ

独立行政法人国立科学博物館（館長：林 良博）は、来る令和元年7月23日（火）から9月1日（日）まで、科博NEWS展示「1889年明治熊本地震－130年前に始まった地震被害調査－」を開催します。本展では日本で最も古い地震被害の写真や、日本で最初に本格的な地震調査を行った際の記録ノートなど貴重な資料を展示します。

1889（明治22）年7月28日に明治熊本地震が発生してから、今年で130年となります。この地震は、日本において「地震学」が始まってから、初めて本格的な地震被害調査が行われた地震で、当時の調査ノートや写真などの関連資料が当館に所蔵されています。科博NEWS展示では、これら明治熊本地震の関連資料を展示するとともに、2016年熊本地震での熊本城石垣の被害や現状についてもパネルで紹介します。

【主催】 国立科学博物館

【開催期間】 令和元年7月23日（火）～9月1日（日）

【開催場所】 国立科学博物館（東京都台東区上野公園7-20）

日本館1階「地を知る－地震計－」のコーナー

本件の詳細については、以下にお問合せください。

本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

担当研究員：室谷 智子（理工学研究部 理化学グループ 研究主幹）

研究活動広報担当：稲葉 祐一

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

TEL:029-853-8984 FAX:029-853-8998

E-mail: t-shuzai@kahaku.go.jp

国立科学博物館HP <http://www.kahaku.go.jp/>

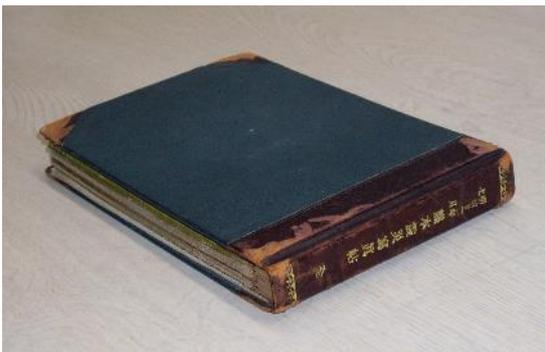
展示概要

1889年（明治22年）7月28日午後11時40分頃、熊本地方で地震が発生しました。この地震では旧熊本市内で死者約20名、負傷者50名以上、家屋全壊230棟以上、さらに熊本城の石垣が崩れるなどの被害が生じました。この地震は、日本で地震学の研究が本格的に始まってから最初に大きい被害が発生した地震で、帝国大学理科大学の関谷清景教授（地震学）を始めとする研究者たちが地震発生後、現地調査に赴きました。このときの被害の様子をスケッチしたノートや、熊本城石垣や市内の被害を写した写真が今も当館に残されています。特に熊本城の石垣の崩壊の写真は、2016年（平成28年）4月に起きた熊本地震の際、明治22年にも地震で石垣が崩壊していたということで、注目を浴びました。これらの写真は、今も熊本市に残る富重写真所の初代写真師、富重利平によって撮影されたもので、日本で最も古い地震被害の写真であり、11枚が写真帖として綴じられました。本NEWS展示では、これら写真の一部と、関谷教授の調査を補助した物理学者長岡半太郎による調査ノート、地震発生から2日後に東京で発行された被害絵図（錦絵）を展示し、明治熊本地震とともに2016年熊本地震での熊本城石垣の被害や現状についてパネルで紹介します。

展示物

「明治二十二年七月熊本震災写真帖」（実物）と台紙写真（レプリカ）

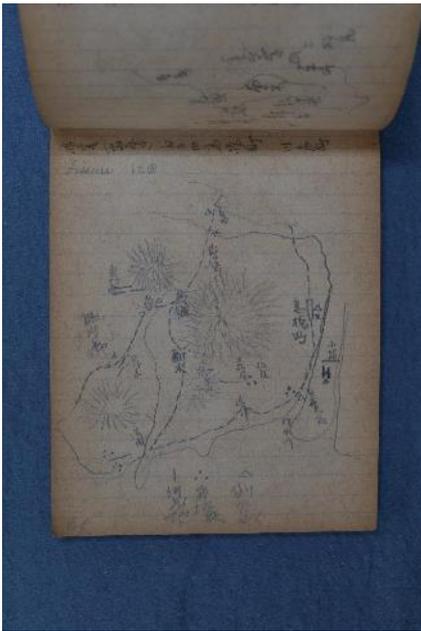
熊本市の富重写真館の写真師である富重利平が熊本県の依頼で撮影したもので、帝国大学理科大学地震学教室に残されていました。日本で最も古い地震被害の写真です。台紙に貼られた写真11枚が綴じられた実物の写真帖を展示します。写真帖では全ての写真を展示することはできないので、台紙写真のレプリカも数枚展示します。
※資料保護のため、会期中に写真を差し替える可能性があります。



写真帖（左：実物）と台紙写真（右：レプリカ）

長岡半太郎による調査ノート

物理学者の長岡半太郎は、関谷教授の調査を補助するため、関谷より一足先に東京を出発しました。熊本に到着するまでの日記や、金峰山周辺、市内の建物や地割れの被害などの様子やスケッチが書かれている調査ノートが残されています。この調査ノートを展示します。資料保護のため、会期中にページを変更する可能性があります。



被害の様子のスケッチ

「熊本県下大地震の実況」絵図（実物）

地震の発生2日後に東京で印刷された絵図を展示します。遠く離れた熊本での地震の被害を伝えるために、瓦版として刷られたものと思われます。家が潰れた被害の様子の絵が描かれており、旧熊本市内や飽田郡の被害状況も記されています。展示スペースの都合上、全てを広げてお見せすることはできません。

